



第 22 回総会を開きます

ポスト・コロナの活動再開と 段階的「終活」について

コロナ蔓延によって支援活動が停止に追い込まれて間もなく 2 年です。新たな変異株オミクロンの登場で欧米が打ちのめされており、先行きにはなお不透明感が残ります。でも 2022 年に入れば、いずれカンボジア現地での支援活動が可能になると想定して、ポスト・コロナにおける活動の進め方と「その後」についての方向づけを図るために 22 回総会を 2 月 6 日 (日) に開くことにしました。

昨年度の総会はコロナによって開催できなかったもので、総会も 2 年ぶりとなります。主要な議題は 2 つあります。ひとつはコロナ禍によって生徒や学校が最も苦しんでいるのは何か、現地訪問再開後に直ぐできる支援は何かです。総会へ向けて議論を煮詰めていきます。

(写真;メコン川からの水量を調節する工事中の水路。プラティアート中・高校近くで、国道 1 号線から入った地点。オーストラリアの援助)



自然減耗—段階的縮小

コロナ禍によって 2 年間、事実上活動を停止せざるを得なかったことによって、迫られていた「KEAF の将来」についての判断も先延ばしになりました。しかし、この 2 年間も KEAF の構造的「高齢化」はお構いなく進行了しました。

2007 年以來の支援活動を振り返ると、2014～15

年をピークにして 2016 年から支援プログラムの段階的縮小に入っています。理由は複合的です。

でも、元々多少の時間に恵まれた高齢者のボランティア活動ですから、10 年を経て事務局スタッフもそれを支える会員、支援者も高齢化が進んだ「自然減耗」が最大の理由だと思います。付け加えればドル建ての現地支援がアベノミクスの影響を受けて、一時は 1 ドル 80 円台に進んだ円価が大きく円安に揺れた影響もありました。

現地訪問再開後の支援策

2019 年の 20 回総会では、当時の支援プログラムを維持するならば 2023 年には繰越金が数十万円となり、KEAF は活動を終わると指摘しています。

す。若い世代の支持者を募ることやクラウドファンディングの試みも効果は上げられず、現在に至りました。

それを補ってくれたのが大口献金でした。そして「コロナ休

眠」で支出がほとんどない中で会員や支援者の皆さんから途絶えることなく支援を頂戴しました。支援プログラムの柱になってきた奨学金給付は現地訪問が不可能になって未支給のまま大半の奨学生が卒業してしまいました。

こうした事情が重なって現年度 (2022 年度) 入りの時点で繰越金経は 580 万円超が計上されています。これは 2012 年度の 660 万円超に次ぎ 2 番目の高額です。

奨学金支援継続は困難

これを如何に有意義かつ有効に使うか。実は、

その選択肢は極めて限られています。さらなる高齢化の進行に経常的な収入見込みを加えれば、現地訪問による支援活動が再開されたとしても、その先行きは不安定です。複数年度(高校生は3年、教員養成所学生は2年と4年)にわたる奨学生をさらに人数を減らして毎年募集しても、勉学途中で奨学金を打ち切らざるを得なくなる可能性があるからです。

残るのは教材・学用品支援

2015年で教科書支援が終わり、同17年に「サッカー教室」を終了、さらに奨学金プログラムの継続が困難になると、残るのは生徒、学校、教員に対する各種教材や学用品の支援です。

2020年度はコロナによって実施できませんでした。12月に入って、現地訪問再開を待ちきれずに、私たちの現地活動と一体になって支援・補佐してくれる日本語通訳・観光ガイドのS・ソワンさんと義弟ナットさんに依頼して、現地調達の物品を各学校に届けてもらいました。大変喜ばれ、今後もしよろしくと要請されたそうです(写真:養護施設アスペカで)。

費用対効果比

だけど、ここにも問題があります。2016年度からコロナ禍前の2019年までの「教材・学用品支援費」は概算で15～20万円です。これを学校に届ける現地活動費(通訳、案内、車チャーター、宿泊費などと渡航費)が45～63万円かかっています。

この現地活動費はこれまでは教材・学用品支援のためだけではなく、奨学生面接や奨学金給付のための必要経費でした。しかし、奨学金プログラムを取りやめると、教材・学用品支援のためにその3～4倍の経費をかけて現地訪問をすることになります。子どもたちの教育支援のために提供された資金の大半をKEAFスタッフの「間接経費」

(渡航・現地活動費)に使うことになります。費用対効果比があまりにも悪い。これは許されないと思います。

教材・学用品支援を今後は、今回のようにソワンさんファミリーに調達・配布を任せる選択はないとは言えません。しかし教材・学用品支援をさらに拡充するとしても、その金額は現地訪問の経費を超えることはなさそうです。他にKEAF活動の柱になる新しい支援プログラムが策定できないとして、財政的にはKEAFはもう何年か長生きできます。

「高校進学支援金」

これと対照的な支援策は、繰越金を最大限コロ

ナ禍で高校進学を断念せざるを得なくなった2022年度中学卒業生に、「高校進学支援金」として給付することではないかと思います。コロナ禍に対応する1回限りの奨学金といってもいいでしょう。そ

のための現地訪問の回数や経費は可能な限り圧縮します。

ソワン、ナット両氏の報告によると、支援地域の学校は10月から11月にかけて再開されているものの、高校や中学では1割から2割の生徒が教室に戻っていないそうです。コロナ禍による家計の困窮のために、一家を上げてプノンペンなどへ出稼ぎに出たままになっているからです。

しかし、退学者は少数とのこと。高校や中学と違って、小学校では生徒はさほど減らず、中には増えている学校もあるようです。教育を大事にする家が増えているのだとすれば嬉しい。でも、コロナによって高校進学を断念する子どもが相当な数いると想像できます。これまでの3年間の奨学金には代われませんが、そうした子どもとその家庭に何とか高校進学の後押しをする一時金です。

この支援策を実施した後、KEAFはどうなるのだろうか。その時みんなで考えることにします。



<ナットさん報告から>

出稼ぎから戻らない生徒も

コロナ禍の傷跡

「日常」への苦闘続く

ソワンさんとナットさんは11月末から12月初めにかけて KEAF が支援する5高校、3中学、4小学校、1養護施設を訪問して教材・学用品を届け、それぞれの校長先生から子どもたちや学校・施設の様子を聞いてきました。以下はナットさんの報告から。

全体状況

カンボジアの農村では10月から11月にかけてほとんどの学校が授業を再開したそうです。中学校卒業資格を取るための国家試験は11月15-16日に実施され、全員合格でその全員が高校進学希望(バンティチャクライ)の一方、合格60%(プレイトープ)、70人中16人が欠席(チョーチアル)という学校も。

高校卒業・大学入試資格試験も12月27-28日実施へ。2022年度学期は2022年1月11日に始まります。こうした日程は2カ月あまりずれ込んでいます。



先生も教室も教材も

高校と中学では今もクラスを2つに分けて隔日授業にしている学校もあり、一部ではオンライン授業も並行して続いています。教室は十分になったが先生が不足。教室も先生も足りない学校もあります。中でも開設10年にならないチョーチアル中学(上の写真)は今も毎年10%の勢いで生徒数が増えていて、先

生教室も追いついていないと困っていました。

教材・学用品はどこでも不足していて、KEAFからの支援が届いたことに大喜びしてくれたそうです。

コメの輸出が不安定

コロナ禍の打撃は大きく、高校や中学校では生活困窮で一家を上げてプノンペンなどへ出稼ぎに出た生徒が戻っていないので、1割から2割の席が空いたままとのことです。

それでも中学、高校での退学者はごく少数と言います。小学校ではほとんどの生徒が戻っていて、(新入生が多くて)生徒数が増えた学校もあるようです。

コロナの感染はおさえられてきているのですが、ガソリンやディーゼルの値上げ、収穫は終わっているのにベトナムへのコメの輸出が不安定で売値が上がらないといった事情で、どこへ行っても苦しい生活が続いているようです。



女性高校長

支援5高校のうち、タッコー高校の校長さんはただ1人の女性でしたが、数年前に定年退職。今度、プロモル高校で副校長だった女性が校長に昇格したことが分かりました。同校はプレイヴン州の郡都のひとつ、プレアスダイに在って周辺一の大きな高校。

カンボジアは男女平等が遅れているといわれますが、生徒数ではどの学校もほぼ男女半々。KEAFの高校奨学生を見てもそうですが、時には女生徒の方が多いこともあり、成績でもトップ級は女性の方が多いようです(上の写真;左のマスクが新校長、右のマスクを外しているのはソワンさん)。

養護施設からトップ大学へ

プレイヴン市にあるフランス系養護施設アスペカでは現在52人(うち25人が女性)の生徒がいて、5人が卒業したとのこと。1人はプノンペン大学に合格したそうです。(4頁に続く)

ありがとうございました (2021 年 9 月 1 日～11 月 30 日)

年会費、寄付金、奨学金を振り込みくださった方々に厚くお礼を申し上げます (敬称略させていただきます)

(神奈川) (東京) (大阪) (福岡) (東京) (群馬)
(兵庫) (東京) (東京) (東京) (東京) (東京)
(東京) (東京) (神奈川) (東京) (神奈川) (長野)
(東京) (神奈川) (神奈川) (東京) (東京)
(熊本) (東京) (東京) . . . (大阪)
(神奈川) (神奈川) (東京) (神奈川) (東京)

※お名前は個人情報なので伏せて掲載しています。

◇物品支援ありがとうございました

様 (埼玉): 文房具 (ノート、色鉛筆、
消しゴム、他多数)

(3 頁からの続き)

＜ナットさん報告から＞

道路事情は相変わらず

農村部の道路整備も近年進んで支援先のすべての学校へ車で行けるようになったのですが、大雨が降ったのか、あるいはコロナの影響でしょうか、2カ所の学校には行けませんでした。

プレイヴェン州東部、ベトナム国境に近いプレイトープ中学と同小学校の校長先生には、バイクで少し離れたソンボン小学校に集まってもらいました。

プレイヴェン州の北側に接するスヴァイリエン州のアンサー小学校の校長先生らにもバイクを飛ばしてチョーチアル中学にきてもらいました。

日本留学生は校長さんの息子

プレイヴェン州の州都で同名の市にあるプレアドウン高校は施設でも規模でも州最大の高校。校長先生の息子さんの3年生が日本政府の留学生試験に合格したそうです。同校からは数年前に女子生徒が日本政府の留学生試験に合格して、現在は北九州工大 (エンジニア・コース) で勉学中。実はこの留学生も校長先生の娘さん。親日一家です。

(右の写真: 上はブノンペンの本屋・文具店に注文した教材・学用品支援の段ボール箱。下はその中身)

◇カンボジア教育支援基金 (KEAF)

第 22 回総会

日時: 2 月 6 日 (日) 午後 2 時—4 時

場所: JICA 地球広場会議室

新宿区市谷本村町 10-5

カンボジア教育支援基金 (KEAF) の会員には 1 月中旬までに、往復はがきにて案内状をお送りします。

